

中学生の税についての作文・書写

県税のしおり
令和4年度

次代を担う中学生に、応募を機会に税について考え、税に関する正しい知識を身に付けていただくため、毎年、納税貯蓄組合連合会が、県教育委員会などの後援を得て、税についての作文・書写を募集しています。令和3年度は、広島県内の中学校に在籍する生徒の皆さんから、作文 8,336 編、書写 18,103 点の応募があり、次のお二人が広島県知事賞を受賞されました。

広島県知事賞（作文の部）

「ぼくらを守る助け合いの輪」

広島市立城南中学校 三年
三井 理生

日本は、どれだけ自然災害が続いていくのだろうか。この自然災害が、いつか終わるときはくるのだろうか。広島県に住む僕は、特に土砂災害のニュースを見ると、本当に心が痛む。

平成二十六年八月二十日、僕が小学校二年生の夏に、広島市で大規模な土砂災害が発生した。この時の雨のすごさは、今でもまだはっきりと覚えている。あまりにも雨の音がすごいのでカーテンを開けてみたら、雨が滝のように降っていて、一メートル先が見えなかった。翌朝カーテンを開けたら、リビングの前の庭は、池になっていた。

僕の通う小学校は避難所になり、夏休みは延長された。多くの自衛隊や消防の方々が助けに来てくれた。全国からたくさんのボランティアの方々が駆けつけてくれた。僕の母も週に何回か泥をかき出すボランティアに行った。その時、真夏の炎天下の中、自衛隊の方々がとても丁寧に、静かに泥の中を捜索して下さっている姿に感動し、心から感謝したと言っていた。

その後、自衛隊や消防の方々のお陰で、行方不明だった人が見つかり、ボランティアの方々のお陰で、泥だらけの町がだんだんと前の姿に戻っていった。そして現在、僕たちの町には砂防ダムができ、被害を少なくしてくれている。

土砂災害が起こった当時、僕はまだ小さかったので何も分かっていなかったが、後からこの緑井という町を助けてくれたのは、たくさんの心優しい人々と、多額の税金であることを知った。

小さい頃は、「何か災害が起きたら、誰かが助けてくれるだろう」と漠然と思っていたが、人やお金がないと、助けることも、助けてもらうことも出来ない。特にこのような大規模な災害が起きた時には、税金のような多額のお金が必要になってくる。

今年七月に、熱海で大きな土砂災害があった。土砂が流れていく映像を見るのは本当に辛かった。その後、お盆の辺りからあちこちの県で特別警報が出され、災害が起こってしまった。日本は毎年のように大きな災害が起こる。災害大国の日本において、税金を災害に使うことは、残念ながら当たり前ようになってしまっている。

税金は、皆さんの優しさやエールが詰まったお金だと思う。「助けてもらって当たり前」ではない。僕は、僕たちの町や暮らしを、皆さんからの税金で助けてもらったことに、心から感謝している。そして僕も誰かに感謝してもらえるように、大きくなったら、しっかりと納税をしていきたい。そして、税金という大きな「助け合いの輪」に入り、納税することによって人の役に立てる喜びを感じていきたいと思っている。

広島県知事賞（書写の部）

「納税は期限内」

呉市立呉中央中学校 三年
伊東 璃子

広島
伊東璃子
納税は期限内

納税意識

